

2021年度 学校評価（自己評価）報告書

評価項目		自己評価
I 教育課程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染対策をとりつつ、新入生及び在校生に対しては学年集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を周知した。 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の目標について、在校生に説明するとともに、オンライン学校説明会参加者にも周知した。
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標に則し、新学習指導要領に向けて適切な教育課程を編成し、新しい学習評価について検討した。 SSH指定校として、教育課程を適切に実施した。
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大に配慮しながら、必要な授業日数及び時数を確保した。
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応に伴う欠欠や出席停止の生徒に向け、MoodleやWebexを利用し授業配信を行い、適切な学習支援を行った。
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における安心・安全な学校行事の在り方を検討し、適切に実施することができた。 教育活動全体のバランスを考慮し、教育効果の高い学校行事の適切な配置を検討した。
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路委員会の機能を充実させ、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を引き続き強化した。 大学入学共通テストや新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う入試形態の変更について、保護者会及び学年集会を通して適切な情報発信を行った。 学年に対応するキャリア教育実施の補助を行った。
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> SSH指定校（3年目）として研究開発に取り組んだ。 校内研修会を実施し、教育実践に活かした。 大学と連携し、授業研究等を進めた。 個人研究費を有効に活用し、個人研究を活性化させた。
	8. 帰国・国際教育	<ul style="list-style-type: none"> 台北市立第一女子高級中学とのオンライン台湾研修をさらに充実させた。事前にメールを通じた交流や英語に関する指導にSSH課題研究I英語担当教員があたるなど体制を整え、初めてオンライン合同研究発表会を実施した。 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、AFS、IFAなどが主催する短期・中期の留学生の受け入れはできなかった。
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における安心・安全な自治会行事の在り方を検討し、適切に実施することができた。 生徒たちの創意工夫を生かした自治会行事運営を支援し、適切な指導・助言を行いながら生徒たちの自治意識を高めることができた。 自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう指導した。
	その他	
A 普通教育を行う学校園として	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、会議時間の短縮、勤務時間の適正化に努めた。 学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 企画運営委員会を34回開催（2月末まで）し、新型コロナウイルス感染症感染対策を中心に、運営体制のあり方や業務内容の検討を行い、円滑な学校運営に努めた。 P T A、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努めた。
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症感染対策のため、行事や学外引率・出張等に関連する支出額が減少し、オンライン等ICT環境整備に係る支出額が増加するなど、例年とは異なる校費、運営基金、諸費用の運用となったが、預かり金徴収額を調整する等で適正に執行した。 校舎改修・環境改善事業募金を適正に管理し、放送設備工事を実施した。 SSH予算を適正かつ効果的に運用した。
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 校舎及び体育館の放送設備分岐工事及び体育館内壁張替工事を行った。
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。 新型コロナウイルス感染症感染対策を適切に実施した。 生活会議においては教員全体の情報共有と共通理解をはかり、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、担任団との連携をはかりつつ、個々の生徒に対する健康相談および支援を行った。 人間関係構築に関する初期段階のかかわり方の支援を行った。
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> 大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。 全学防災訓練に参加した上で、防災設備を確認し、防災用品の防災倉庫への機能的な配置を実施した。備蓄品の在庫を確認し、必要なものは補充した。 「東京防災」および「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用して、安全管理や危機意識に関する指導を適切に行った。
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> 増設されたネットワーク機器を安定して運用した。 ICT機器の適切な運用・管理に努めた。引き続き、校内ネットワークの増強・改善に努める。
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの効果的な運用に努めた。 新型コロナウイルス感染症感染対策のため、6月及び9月にオンラインによる学校説明会を開催した。関東圏外や海外在住、また小学生の参加も見られた。（参加者数：692組、714組） 保護者授業参観は、新型コロナウイルス感染症感染対策のため6月は中止とし、感染拡大が一旦落ち着いた11月に実施した。 学校評議員会および学校関係者評価委員会を7月（対面）・2月（文書）に開催し、コロナ禍における学校運営および学校評価について有益な助言を得た。
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染対策を徹底しつつ、入学検定を公正・適切に実施した。 Web出願システムの導入に伴い、入学検定に関する文書・手続き等を再整理した。 入試問題の作成においては、昨年度に引き続き、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。
	9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と学校間の連絡が適切に行われるよう努めた。 P T A活動の効率化を図った。 P T Aと教育後援会とのスムーズな連携ができるよう努めた。
	10. 学年活動	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣、学習習慣を確立できるよう支援した。 学校行事や委員会・部活動などを通して、自主・自律の精神および他者と協働できる態度を養った。 学習のガイダンスを定期的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。 キャリア教育の推進によって幅広い進路選択を考えられるよう支援した。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の定着を促し、基礎学力の充実を図るとともに、発展的・探究的な学習を通して、総合的な学力の向上を図った。 卒業生による進路講演会（オンライン）や3回の学力テストなど、進路・キャリアについて考える機会を計画的につくり、自己実現可能な進路選択を指導、支援した。 例年通りの行事ができない中、新しい生活様式に沿った形で行事の企画や運営に主体的に取り組み、目標を達成できるような活動を指導・支援した。 例年と異なる環境の中、自律した生活習慣と安定した学校生活を送れるように支援した。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に進路を選択し、自己実現を進めているよう指導・支援することができた。 生徒が既習の知識を活用しつつ、主体的かつ計画的に学習に取り組み、進めていけるよう指導・支援することができた。 学校生活の様々な場面において、最高学年として相応しい態度や振る舞いができるよう、指導することができた。
その他		

B 大学の附属学校園として	I 大学との連携	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> ・大学関係の研究調査依頼が1件あり、調査に協力した。 ・学校教育研究部を中核とする5附属校園間の連携研究に17名が参加し、研究に寄与した。 ・「新教養基礎」は計画通り10回実施し、様々な分野の講義を提供し、生徒がより有機的に学ぶことができた。 ・大学の公開授業をのべ97名（履修:38名、聴講:59名）の生徒が受講した。 ・「選択基礎」を16名（文教育6名、理学部3名、生活科学部7名）が受講し、特別選抜で16名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・附属高校生向けキャリアガイダンスを2年生を対象に9月に行った。 ・東京工業大学サマーチャレンジに3年生5名が参加した。特別選抜入試に3名が合格し、さきかけ教育を受講した。また、12月にはウィンターレクチャーを実施し、1・2年生全員及び3年生希望者が受講した。 ・筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携の取り組みとして、1年生のキャリアフォーラムをオンラインで開催し、筑波大学附属高生と交流をした。キャリアカフェを2回実施（1回はオンライン実施）し、両校の希望する生徒が参加した。
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染対策を徹底しつつ、可能な範囲で大学や附属学校園との授業交流や授業公開を行うよう努めた。
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・前期14名、後期20名の教育実習を行い、教科指導の専門性の向上、教員として必要な資質・能力の育成を促した。今後さらなる改善及び充実を図る。 ・教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう努めた。 ・教職実践演習の一環としての授業参観は、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため見送った。
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・入学進学専門委員会では、連絡入学及び一般入試の公正・適切な実施に向け情報を共有し対応を検討した。また、今年度から導入したWeb出願に関して各校園の状況を共有し、入試業務に生かした。 ・その他、各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科7名の教員が教科教育法の授業を担当し、新型コロナウイルス感染症感染対策に努めつつ、その効果が上がるように実施した。 ・教科教育法以外の授業（3科目）を3名の教員が担当した。
		6. インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの学生については、学部から地歴科（地理）と課題研究Ⅰで2名、保体科と課題研究Ⅰで2名を受け入れ、研究に協力した。
	その他		
	II 社会貢献	1. 授業参観研修生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの授業参観・学校訪問等の受け入れは6件であった。
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に公開教育研究会を実施し、SSHを含む教育活動の成果を発信し、380名の参加があった。 ・3月にSSH成果発表会を実施し、探究的な学習の取り組みを発信した。
		3. 初任者研修・現職研修	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修に1名、中堅者研修に1名参加した。
		4. 途上国支援	(2021年度 該当なし)
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。 ・SSH指定校として、報告書、生徒成果集を作成した。
6. 各種研究会への協力		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染対策により、例年通りの開催形態による研究会開催が中止となり、講師派遣等依頼はオンラインによる2件となった。 ・学内外の研究会等に可能な範囲でオンラインで参加した。 	
その他			

2021年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 教育課程の編成(A-I-2)

- ・教育目標に即し、新学習指導要領に向けて適切な教育課程の編成を検討する。
- ・SSH指定校として、教育課程を適切に実施する。
 - ⇒ SSH指定校として新しい教育課程を適切に実施するとともに、新学習指導要領に向けて適切なカリキュラムを編成し、新しい学習評価について検討を行った。

2. 研究・研修(A-I-7)

- ・SSH指定校(3年目)として研究開発に取り組む。
 - ⇒ SSH指定3年目として研究開発に取り組み、今年度から開講した学校設定科目を実践するとともに、4年目に向けて準備を進めた。
 - 11月に公開教育研究会、3月に成果発表会を開催し、開発科目の授業及び生徒のプレゼンテーションをオンラインで配信し、研究報告書、生徒論文集を作成した。

3. 施設・設備(A-II-1)

- ・校舎改修後の施設・設備の未整備な箇所を順次整備するよう努力する。
 - ⇒ 校舎及び体育館の放送設備分岐工事及び体育館内壁張替工事を実施した。校内ネットワークの増強・改善に更に務める。

4. 健康(A-II-4)

- ・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努める。
 - ⇒ 新型コロナウイルス感染症感染対策を適切に実施した。

5. 入学検定(A-II-7)

- ・入学検定に関する文書・手続き等諸課題の検討と、入試問題作成及び採点業務に関し、チェック体制・危機管理体制の強化維持に努め、公正な入学検定を実施する。
 - ⇒ Web出願システムの導入に伴い、入学検定に関する文書・手続き等を再構築した。システム稼働によって、一部業務軽減に繋がった。

6. 連携研究(B-I-1)

- ・高大連携特別教育プログラムの円滑な実施に努力するとともに、「新教養基礎」の運営改善や「キャリアガイダンス」に取り組む。
 - ⇒ 「新教養基礎」は計画通り実施し、様々な分野の講義を提供し、生徒がより有機的に学ぶことができた。附属高校生向けキャリアガイダンスは今年度から2年生を対象に9月に実施することになった。本学教授陣による「新教養基礎」は生徒のキャリア形成に与える影響が大きく、「選択基礎」受講及び「特別選抜」による本学進学者数は16名となった。